

# いのちをつなぐ水と流域 地域市民対話プロジェクト

## 地域対話フォーラム 2023 IN AICHI

### ○分科会 4 : パートナーシップ (SDGsの協働)

### 三河湾流域における上流域～下流域の連携・協働について

令和5年2月23日

愛・地球博記念公園 地球市民交流センターにて

NPO法人 愛知環境カウンセラー協会

# 1 「三河湾環境再生プロジェクト」について

愛知県が進めているプロジェクトで、三河湾を取り巻く沿岸地域の県民、NPO、市町村及び県が一体となって、三河湾の再生に向けた取組の機運を高めるため、2012年度よりNPO等の活動支援や他県の活動を踏まえたシンポジウムの開催、三河湾の里海再生に向けた調査活動、生物多様性についての体験型セミナーが実施されています。

## ○NPO等の活動支援

当協会では、『あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業』交付金を活用し、2012年度より毎年「三河湾環境再生ワークショップ」を実施しています。

## 2 「三河湾環境再生ワークショップ」の実績

- 実施期間：2012年～2022年
- 実施場所：三河湾沿岸部、流域内（知多半島、西三河、東三河）
- 延べ参加者：約600名
- ワークショップの内容
  - ・座学（琵琶湖での活動事例、各種団体の保全活動の視聴）
  - ・海上視察、海水の調査、三河湾の島めぐり
  - ・流域内のバスによる巡回、河口部から源流部までの踏査
  - ・上流域で活動するNPO団体との交流
  - ・沿岸部における生き物、海岸漂流物の観察
  - ・海浜部でのビーチコーミング、クリーンアップ活動

(第3種郵便物認可)

三河湾の水質浄化をのシンポジウムが十八日、目指す県の三河湾環日、滋賀県の嘉田由紀、境首生プロジェクト」子知事らを招いて豊橋

# 三河湾浄化 滋賀参考に 豊橋 嘉田知事ら招きシンポ



水質浄化について対談する大村知事(右)と滋賀県の嘉田知事(中)＝豊橋市公会堂で

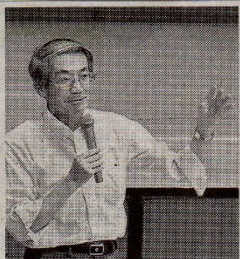
市公会堂で開かれた。三河湾と面積がほぼ

同じで、昭和五十年代から先駆けて水質浄化に取り組んできた琵琶湖の事例を役立てようとの企画。愛知、滋賀両県の環境NPO法人のメンバーら三百五十人が参加した。大村秀章知事と対談した嘉田知事は「愛知県の人が使う七割の生活用水が三河湾に排出されている。水を使う時に、使った水がどうなるのか『見える化』することが必要」と指摘。大村知事は「滋賀NPO法人などが連携して五月から始まり、水質調査や干潟観察をしてきた。来年も続けたい」と話した。  
（中山梓）

## 三河湾の再生へ 里山保全も必要

美浜で活動紹介

三河湾の環境改善に向けた活動などを紹介する「グリーン三河湾ワークショップ」が十一日、美浜町北方の町総合公園体育館で開かれた。環境保全活動を支援するNPO法人「愛知環境カウンセラー協会」主催。知多半島の住民



ら百人が集まった。

前県環境部長の藤井敏夫さん(右)と写真、半田市亀崎高根町が基調講演し、琵琶湖(滋賀県)と三河湾が水域の面積や景観、汚染などで共通点があると解説。「湖や海だけでなく、近くの里山や里地の保全に取り組み、水の循環が機能するよう人手と時間をいっしょに話した。

滋賀県の市民団体による琵琶湖の水質改善活動の紹介や、専門家らによる三河湾の汚染対策の事例発表もあった。

2012.8.12

中日新聞 (知多版)



### 3 滋賀県（琵琶湖流域）との連携、協働について

◆2012年に豊橋市で開催された『三河湾環境再生シンポジウム』における知事対談の中で、当時滋賀県知事の嘉田氏は、「滋賀県が琵琶湖浄化の活動を始めた頃、矢作川流域での活動は光っていた」という話を持ち出され、矢作川方式による矢作川の流域管理の話、その流域管理の中心となって活動された故内藤連三氏（元矢作川沿岸水質保全対策協議会事務局長）の話、豊田市西広瀬小学校児童による矢作川の透視度測定の話なども紹介され、環境アセスメント等についても、いろいろ勉強させてもらったという話が非常に印象に残っています。

★愛知県による「三河湾環境再生プロジェクト」は、面積（水域及び流域）、水域利用、景観、生物などの環境状況など、多くの共通点を持つ琵琶湖における水質浄化活動に学び、滋賀県と協働して三河湾の水質浄化を目指しています。

## 4 森と海のつながり、流域レベルの環境管理について

◆森と海はつながっている。⇒ 上流域～下流域の連携・協働  
「森は海の恋人運動」の広がりなど。

■三河湾には、矢作川流域、さらに豊川、境川などの流域など、県域の広範囲から水が流れ込んでいます。「矢作川方式」による流域管理のあり方にも学び、流域レベル、関係する自治体の広域連携などにより、三河湾の浄化、再生を進める必要があると考えられます。

★流域（環境）管理、広域圏（環境）管理の考え方は、地域主権の強化、地域循環共生圏の形成にも関連し、水質保全以外についても、地域の抱える課題、流域における環境容量を考慮し、バランスのとれた土地利用、メリハリのある環境保全対策を盛り込んだ環境管理計画（愛知モデル）の策定、推進につながっていけばと考えています。